善意の結晶
無縁墓地

芹香院から南東の方向、約四キロのところ、上永谷の天満宮の近くに、雑木の小山を背にして、新装なったばかりの寺がある。天神山貞昌院天照寺といい、本能寺の変があった天正10年建立された曹洞宗の寺である。住職は戦前から戦後にかけて、永野小学校長を15年間も勤めた亀野寛量氏で、今年七九歳。いかめしいという感じはまったくなく、柔和で無限の寛大さをひめたお方である。

貞昌院には芹香院で療養の果てに亡くなった、身寄りのない患者さんの遺骨が収められている。俗にいう無縁仏である。見せていただいた過去帳には、昭和20年の一一名を最高に、開院した昭和4年から44年まで、五六名の患者さんの名前が、命日毎に分けて書かれている。

〝そう、あれは、23年ごろのことでございましたね。菅先生と篠崎看護長と私の三人で話し合いまして、病院の霊安室に骨壺を並べたままにしておくのは、いかにも不憫だ、なんとかしようということになりましてね。墓地は私が無償提供しましたが、墓石の方は、職員の方々でお金を出しあったと聞いております〟と亀野氏はおっしゃる。早速、丹野代吉さんにきいたところ、墓石はひと口一〇〇円（いまの二、〇〇〇円位か）で職員がカンパしたが、囲いは、作業部の秋元源二さんがセメントでかためたのが最初だという。その後、山からの水で墓石が沈んだりしたため、県費による補修工事を二～三回行なって現在に至っているのだそうだ。

貞昌院の門前には、大正天皇の御戴典記念に植樹し、昭和49年度、名木・古木の指定をうけたという、いちょうの巨木が見事な枝ぶりをみせている。

ものいわぬ木々の中で、恵まれなかった歴史の証人たちが、いまも、安らかにねむっているのである。